

# 社会福祉法人 蓮花の会

## 令和7年度 事業報告

### 基本理念

生まれ育ったこの町でこの町のみなさんと一緒に暮らしていきたい（生きたい）と願う  
当事者家族の思いに寄り添い、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを目指し地域福祉  
の向上に貢献します。

### 運営理念

ひとりひとりの個性と可能性を尊重し、住み慣れた地域の中で安心・安全で快適な暮らし  
ができるよう、心かよいあう安定した福祉サービスの提供のために、法令を遵守して健  
全な法人運営に努めます。

### <重点目標>

#### 1 法人理念の浸透

毎朝のミーティング前に基本理念・運営理念及び7項目のスタッフの誓いの唱和を継  
続し法人理念の浸透に努めました。また、法人理念及び7項目のスタッフの誓いを基に  
作成した各サービス事業所理念を掲げています。

#### 2 福祉人材の育成

重度化、多様化する障害特性への支援力向上を目的に、強度行動障害支援者養成基礎研  
修、及び実践研修への派遣や、各職能団体が開催する研修会、将来的なサービス管理責任  
者、児童発達支援管理責任者の育成を目指しサービス管理責任者基礎・実践研修会への受  
講を進めました。また、介護福祉士実務者研修の会場として法人2階交流室を貸し出し、  
当法人職員がスキルアップのために受講しやすい環境を整えました。

#### 3 法令遵守

各福祉サービス事業所の人員配置基準や個別支援計画作成の手順の確認を随時行いま  
した。令和7年6月26日に共同生活援助事業及び短期入所事業の運営指導がありました  
。結果、文書指摘等はありませんでした。今後も法令を遵守した運営に努めます。

#### 4 啓発・広報

年間2回「蓮の実ニュース」を継続して発行しました。また、白石町役場の電光掲示板  
への広告を行いました。ホームページでは法人行事やブログを更新し、支援の様子などを  
発信しました。また、ぺったんこ祭りや各地域のマルシェに利用者とお出かけ、法人の啓発・  
広報を行いました。

## 5 組織機能の強化

改正社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事監査会等を適正に開催し、組織統治体制を整備しました。また、税理士、社会保険労務士等の専門家によるチェック及び相談の体制の充実に努めました。

## 6 法人運営

1. 理事・監事会の開催 計4回
2. 評議員会の開催 計2回
3. 監事監査会の開催 計1回
4. 評議員選任・解任委員会 1回
5. 衛生委員会 1回/月
6. 虐待防止委員会 計2回
7. マネージャー会議
8. サービス管理（提供）責任者会議
9. 職員全体会議 1回/月

### (2) 財政基盤

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| ① 地域活動支援センター事業収入  | ② 居宅介護事業収（休止中）        |
| ③ 重度訪問介護事業収入（休止中） | ④ 日中一時支援事業収入          |
| ⑤ 特定相談支援事業収入      | ⑥ 障害児相談支援事業収入         |
| ⑦ 生活介護事業収入        | ⑧ 共同生活援助事業収入          |
| ⑨ 短期入所事業収入        | ⑩ 放課後等デイサービスはなという事業収入 |
| ⑪ 就労継続支援 B型事業収入   | ⑫ 放課後等デイサービスゆめきら事業収入  |
| ⑬ 児童発達支援事業収入      | ⑭ 移動支援事業収入            |
| ⑮ 寄付金等収入          |                       |

### (3) 市・町受託金・補助金等

・地域活動支援センター事業	白石町	4,750,000 円
・日中一時支援事業	2町3市	5,444,987 円
・移動支援事業	2町	715,309 円
・高齢者配食サービス事業	白石町	6,734,000 円

### (4) その他の補助金・助成金等を積極的に申請して法人運営に活用しました。

・白石町手をつなぐ育成会	25,000 円
・生きがい活動支援補助金（町社会福祉協議会）	50,000 円
・生活困窮者食糧支援 CSO 物価高騰対策支援金	100,000 円
・佐賀県共同募金会活動助成金	21,000 円
・佐賀県物価高騰支援金	388,000 円
・佐賀県障害福祉人材確保・職場環境改善等事業費補助金	1,545,560 円
・佐賀県就労継続支援事業所等生産性向上支援補助金	402,000 円

・職業安定局雇用助成金

1,200,000 円

## 7 利用環境の向上

- (1) グループホーム「ほっとハウス福田」を令和 7 年 4 月より運営開始しました。
- (2) 利用者、利用者家族、地域の住民の方との交流を目的に、蓮花の会秋祭りを開催しました。約 300 名の方が参加されました。
- (3) 新拓地区のサロンの場所を提供しました。第 2・4 週の水曜日に本体施設 2 階交流室にて介護予防体操を実施されています。
- (4) 生活困窮者食糧支援 CSO 物価高騰対策支援金の助成を受け、利用者に対し食料等の配布を実施しました。

# 令和7年度 地域活動支援センター事業報告

## 地域活動支援センター事業 ～理念～

住み慣れた地域の中で安心して過ごすことができるよう笑顔で接し、利用者の気持ちに添った支援に努めます。

### 1. 事業運営基本計画

利用者が生まれ育った地域で、楽しく豊かに暮らすことが出来るよう、日中活動において、それぞれの障害特性に応じた排泄・食事等の必要な支援を実施しました。併せて生産活動の機会の提供を通して就労への意欲を喚起し、社会との交流を促進するとともに、一人ひとりの個性を尊重した事業経営に努めました。

### 2. 利用者の処遇

利用者個々の障害特性に応じた軽作業を検討し、働く事の意義と楽しさを知って貰う事で、心身の活性化と日常生活動作の向上に繋げました。また、季節ごとの行事を取り入れ、他者と交流できるよう支援いたしました。

### 3. 利用者の実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	39	40	29	41	0	39	41	29	20	10	41	32

年間延べ利用者数 361人 月平均利用者数 30.1人 1日平均利用者数 1.5人

### 4. 健康管理

毎利用の始めに体温と血圧の測定を行い、感染予防対策として手指消毒、マスク着用、アルコール消毒、室内の換気など徹底しました。

### 5. 防災計画

年2回、令和7年7月29日、令和8年2月23日、施設内他事業と合同で火災を想定した避難誘導訓練及び災害を想定した避難訓練を実施し、避難誘導訓練や避難経路の確認を行いました。

### 6. 日課

サービス提供時間（土・日・祝祭日を除く 9:30から15:30）において、利用者の体調等を考慮して作業内容を検討し、缶回収、JA作業（お茶の箱作り）、ボタン入れ、弁当配達など無理がない程度の日中活動を提供し、希望される方は入浴も提供しました。

### 7. 職員研修

内部、外部の研修等に積極的に参加して、職員会議等で伝達・報告し、事業所全体の資質の向上とサービス向上に努めました。

# 令和7年度 生活介護事業報告

## 1. 事業運営の基本方針

利用者が自立した日常生活または社会生活を営む事ができるように入浴、排泄、及び食事の支援、他者と関わりの場の提供に結びました。住み慣れた地域で、これからも暮らしていけるようにきめ細やかな支援をすると共に、ひとりひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。

## 2. 利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し、常に利用者の立場に立って心身の安定と身体機能の維持・向上に向けた支援を行いました。入浴支援には特に力を入れ、清潔保持とリラックスできる時間の提供を行うと共に、個々の要望に添えるようまた安全かつ自立に繋がる支援を行いました。また、さまざまな特性を持つ利用者が安心して穏やかに過ごす事ができるよう、パーティション等を用いてスペースを工夫し環境の整備を行いました。

## 3. 健康管理

来所後にバイタルチェックを実施し、体調不良及び身体に変化がある場合は看護師と協力しながら対応し、必要に応じて個室での状態観察や家族への連絡を行いました。また嘱託医による月1回の往診、健康相談を実施しています。感染予防対策として嗽や日常の手洗いと室内の換気の励行をこまめに行い、テーブルや手すりの消毒も実施しています。体温チェック表を各家庭にお渡しし、ご家庭にも協力を仰ぎ定期的な体温の観察を行っています。GHの利用者が感染症に罹患した際は、本体施設2階にて個別で対応し感染拡大防止に努め支援を行いました。

## 4. 防災計画

火災を想定した避難訓練を令和7年7月29日（火）と令和8年2月23日（月）に実施しました。

## 5. 人材育成と専門性の向上

職員の育成に向け、内部・外部研修に参加して事業所職員全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

### 【外部職員研修】

- ・6/16、6/17 強度行動障害支援者養成研修(基礎)
- ・6/30、7/1 強度行動障害支援者養成研修(実践)
- ・7/10 九州ブロック社会福祉法人経営青年会セミナー 熊本大会
- ・9/18、9/19 全国社会福祉法人経営者大会
- ・10/18 福祉サービス事業所での支援の工夫(強度行動障害者の理解と支援)
- ・11/1 One Society FORUM SAGA2025 プログラム(2名参加)
- ・11/7 佐賀県相談支援従事者専門コース別研修 意思決定支援(2名参加)
- ・11/8 生活介護事業所での支援の工夫 Cコース
- ・12/11 社会福祉法人経営青年会セミナー 鹿児島大会
- ・2/21、2/22 福祉有償運送 運転者講習会(2名参加)

### 【内部職員研修】

- ・5/21 個別支援計画について ・6/24 感染症による業務継続計画について
- ・8/20 災害におけるBCPについて
- ・9/20 権利擁護・虐待防止研修 支援現場で活かすアンガーコントロール
- ・10/22 根拠のある記録の書き方について ・1/21 障害者支援における精神衛生について
- ・2/14 Hug Hug4 団体合同研修 障害者の意思決定支援

6. 年間スケジュール ※誕生会を対象者がおられる月に適宜実施しています。

- ・4月/5月…入所式、ドライブ ・6月/7月…あじさい見学、おやつ作り
- ・8月/9月…夏祭り、買い物 ・11月/12月…秋祭り、クリスマス会
- ・1月/2月…新年会、初詣、節分豆まき ・3月…花見ドライブ

8 利用実績

	月/区分	2	3	4	5	6	計	市町村別利用者数		年齢別利用者数	
								市町村	人数	年齢	人数
令和7年度	4月			40	141	181	362	(令和8年3月31日現在)		(令和8年3月31日現在)	
	5月			43	138	190	371	白石町	15	10代	1
	6月			41	140	181	362	江北町	1	20代	9
	7月			42	152	179	373	大町市	3	30代	6
	8月			52	122	169	343	嬉野市	2	40代	2
	9月			60	125	167	352	武雄市	1	50代	2
	10月			59	123	180	362	小城市	1	60代	3
	11月			56	119	168	343				
	12月			47	112	197	356				
	令和7年度	1月			47	114	197	358	計	23	計
	2月			40	102	172	314				
	3月			22	140	197	359				
利用者延数(A)				549	1528	2178	4255				
令和6年度(B)				615	1474	1831	3920				
増減(A-B)				-66	+54	+347	+335				

※利用者の87.1%は障害支援区分5または6を有し、日常的にマンツーマンでの支援を行っています。(昨年度は84.3%)

※最低年齢19歳、最高年齢69歳と幅広い年齢の方が利用されています。

# 令和7年度 特定相談支援事業所・障害児相談支援事業所

## 蓮の実 事業報告書

### 1. 事業目的

特定相談支援事業所 蓮の実は、障害のある方、障害児及びその家族が、住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう、本人の意思及び人格を尊重し、必要な障害福祉サービス等を適切に利用するための相談支援を行うことを目的とする。

また、サービス等利用計画及び障害児支援利用計画の作成、定期的なモニタリング、関係機関との連絡調整を通じて、本人の生活状況や家族の意向に応じた支援体制の構築及び継続的な支援の充実を図る。

### 2. 事業実施状況

令和7年度は、理念である「寄り添い、ともに歩く」を基本に、本人・家族の意向確認、関係機関からの情報収集、サービス担当者会議及び支援会議への参加、サービス提供時モニタリング、通院同行、退院支援会議、保育園・学校等への訪問、事業所見学同行等を実施した。また、主任相談支援専門員として、県全域の相談支援アドバイザーとしての役割を担い、研修ワーキンググループ、アドバイザー会議、県協議会等に参加・協力し、佐賀県内における相談支援体制の充実及び人材育成に寄与した。

杵藤地区においても、自立支援協議会の活性化に向けて、運営会等への参加を通じ、地域課題の共有、関係機関との連携強化、相談支援体制の整備に協力した。さらに、蓮花の会の利用者の中心を占める強度行動障害児者への支援体制整備を目的として、佐賀県強度行動障害支援推進協議会に協力し、関係機関との連携体制の構築を進めた。その結果、生活介護事業における実際の支援場面でも連携が実現し、支援体制の具体化につながった。なお、月別報告書の一部において、内訳と月計に差異が確認されたため、本報告書では「新規計画」「更新・変更」「モニタリング」の内訳を正として再集計した。

### 3. サービス等利用計画・モニタリング実績

#### (1) 成人（18歳以上）

区分	件数
計画作成	51件
モニタリング	129件
合計	180件

#### (2) 児童（18歳未満）

区分	件数
計画作成	84件
モニタリング	135件
合計	219件

### (3) 全体実績

区分	成人	児童	合計
新規計画	4件	12件	16件
サービス等利用計画 更新・変更	47件	72件	119件
計画作成等 合計	51件	84件	135件
モニタリング	129件	135件	264件
年間対応件数 合計	180件	219件	399件

※計画作成等合計は、新規計画及びサービス等利用計画更新・変更の合計。

※年度末時点の契約者数は、月別報告書のみでは確定できないため、別途利用者一覧等で確認のうえ追記する。

### 4. 月別実績

月	新規成人	新規児童	更新変更成人	更新変更児童	モニタ成人	モニタ児童	成人計	児童計	月計
令和7年4月	0	0	2	3	10	11	12	14	26
令和7年5月	0	4	4	2	10	24	14	30	44
令和7年6月	1	3	5	3	4	21	10	27	37
令和7年7月	1	0	5	4	6	11	12	15	27
令和7年8月	0	0	3	12	13	7	16	19	35
令和7年9月	1	0	4	5	13	12	18	17	35
令和7年10月	0	0	4	1	13	4	17	5	22
令和7年11月	1	0	4	11	12	8	17	19	36
令和7年12月	0	1	2	7	16	5	18	13	31
令和8年1月	0	0	3	6	10	7	13	13	26
令和8年2月	0	2	7	6	11	11	18	19	37
令和8年3月	0	2	4	12	11	14	15	28	43

### 5. 会議・連携等の実施状況

年間を通じて、サービス担当者会議、支援会議、連携加算に係る面談・会議、サービス提供時モニタリング、通院同行、事業所見学同行、保育園・学校・行政機関への訪問等を実施した。児童については、保育園、小学校、特別支援学校、教育委員会等と連携し、発達状況、生活場面での困り感、支援方針、サービス利用状況の確認を行った。成人については、生活介護、共同生活援助、就労継続支援B型、医療機関、訪問看護等と連携し、生活状況、健康状態、就労・日中活動、住まいの状況等の把握及び支援調整を行った。また、医療機関への通院同行や退院支援会議への参加等を通じて、医療と福祉の連携を図り、地域生活の継続に必要な支援体制の調整を行った。

### 6. 研修会・協議会等への参加状況

相談支援専門員としての専門性向上、地域課題の把握、関係機関との連携強化を目的として、各種研修会・協議会等に参加した。主な参加状況は以下のとおりである。

月	主な研修・協議会等
4月	佐賀県自立支援協議会相談支援部会、佐賀県ピアサポート研修事業審査員
5月	県協議会人材育成部会研修WG、自立支援協議会相談支援部会、精神ネットワーク部会、社会福祉法人経営青年会、県企画検討委員会
6月	全国経営青年会、九州ブロック経営協、日本相談支援専門員協会全国研修、強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）、協力委員会、県協議会研修WG、就労B事業所内覧会
7月	月別資料上、研修会・協議会等の記載なし
8月	自立支援協議会相談支援部会
9月	経営協全国大会打ち合わせ、経営協青年会委員会、自立支援協議会幹事会、県自立支援協議会研修WG、経営協全国大会
10月	県自立支援協議会、障害者ピアサポート指導者養成研修、自立支援協議会相談支援部会、強度行動障害フォローアップ研修、県自立支援協議会ファミ研、自立支援協議会就労支援部会
11月	経営者青年会全国大会、相談支援専門コース別研修（意思決定支援）、事業所視察訪問、佐賀県自立支援協議会人材育成部会
12月	医療的ケア児等コーディネーター、佐賀県自立支援協議会アドバイザー会議、杵藤地区自立支援協議会幹事会、経営青年会鹿児島セミナー・会長会議、強度行動障害フォローアップ研修
1月	経営青年会研修、医療的ケア研修会打ち合わせ、県協議会人材育成部会、医療的ケア研修、県協議会人材育成部会研修WG
2月	医療的ケア研修会議、アドバイザー会議、事業所引継ぎ会議、企画検討委員会、経営協県セミナー、ハグハグ研修会、高次脳機能障害研修、精神障害者支援研修、サビ管更新研修、強度行動障害フォローアップ研修
3月	のどか訪問看護ミーティング、経営協青年会全国委員会、県自立支援協議会、自立支援協議会幹事会、青年会総会、県協議会研修WG、医療的ケア研修ミーティング

## 7. 総括

令和7年度の年間対応件数は、399件であった。内訳は、計画作成等135件、モニタリング264件であり、成人は180件、児童は219件であった。件数上は前年度より減少傾向が見られるが、通院同行、退院支援会議、学校・保育園訪問、連携加算に係る会議参加、サービス提供時モニタリング等、個別調整を要する業務が継続しており、単純な件数のみでは業務負担を評価しにくい状況であった。今後も、利用者及び家族の意向を丁寧に確認しながら、医療、教育、福祉、行政等との連携を強化し、地域における生活の継続と安定に資する相談支援の提供に努める。

## 8. 次年度に向けた課題及び方針

次年度においては、計画相談支援事業を安定的に継続していくため、持続可能な運営体制の構築が課題である。特に、相談支援専門員個人の経験や力量に依存しすぎないように、業務手順、記録管理、モニタリング管理、会議対応、加算算定に係る事務処理等を整理し、事業所として安定して支援を提供できる体制づくりを進める必要がある。また、主任相談支援専門員としての役割を踏まえ、法人内における相談支援の視点の共有、人材育成、OJT、計画作成や記録の標準化を進めることも重要である。あわせて、県全域の相談支援アドバイザーとして、研修ワーキンググループ、アドバイザー会

議、県協議会等への参画を継続するとともに、杵藤地区においても自立支援協議会の活性化に協力し、地域の相談支援体制の充実に寄与していく。

さらに、蓮花の会における相談支援事業の役割を明確化し、生活介護事業、児童発達支援、放課後等デイサービス、共同生活援助、就労継続支援B型等との連携をより実効性のあるものとしていく必要がある。特に、強度行動障害児者への支援体制整備については、佐賀県強度行動障害支援推進協議会等との連携を継続し、法人内外の支援体制の構築を進めていく。加えて、相談支援事業の収支面についても、支援の質を維持しながら、適切な加算算定、業務効率化、稼働状況の把握を進め、事業の黒字化に向けた運営改善を図ることが課題である。

## 令和7年度 共同生活援助事業報告

### 1. 業務報告

利用者が安心して穏やかに暮らすことができるよう、家庭的な雰囲気作りに努めました。利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の自己選択、自己決定を大切にされた支援を心掛けました。ホームの理念に添い、温かいホームで、楽しい共同生活を送る事が出来るよう努めました。

個別支援として、買い物の支援や外出、外食等、入居者の希望を聞きながら実施しました。

#### \*コロナ及びインフルエンザ感染について

感染防止のため施設内の除菌や手指消毒等に努めました。7年7月20日から入居者のご家族がコロナに感染、11月26日から入居者のご家族がインフルエンザに感染されました。共に自宅にて接触されており用心のため本体施設へ移動して頂き支援を行いました。また9月26日からコロナ感染1名、9月30日からコロナみなし陽性1名、8年2月18日からインフルエンザ1名、いずれも本体施設に移動して頂き支援を行いました。8年2月21日からは職員のインフルエンザみなし陽性もありました。

### 2. 利用者の処遇

利用者の心身の状況や、ひとり一人の個性を尊重し、また家族の意向を確認しながら、個別支援計画を作成しました。その計画に基づき、チームで統一した支援を実践するように毎月の支援会議で申し合わせを行いました。利用者が介護を受けるだけでなく、本人が出来ることを見つけ、毎日の掃除機かけ、洗濯物干しや洗濯物たたみ、コップ洗い等職員とともに実行することで、出来る事をふやしていく取り組みをしました。

### 3. 健康管理

毎朝、バイタル測定を実施し、異常の早期発見に努めました。週ごとに朝、夕の献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。誤嚥防止や咀嚼力により個々に合わせた食事形態に配慮しました。また、増加しがちな体重管理の為、野菜中心のメニューを作成したり、若い利用者が好む食材を考慮し提供しました。年間を通じてコロナウィルスやインフルエンザ感染防止の為、手洗い、消毒、施設内の除菌作業を毎日行いました。

### 4. 環境の整備

日頃から清掃、換気に努め清潔な環境で気持ち良く生活出来るよう配慮しました。衣類は毎日、リネンは毎週洗濯し快適な暮らしに向け努めました。

### 5. 防災計画

防災計画を作成すると共に、7月と2月の20時に災害時避難訓練を実施しました。利用者へは事前には知らせることなく実施しましたが、回数を重ねるごとに短時間でスムーズな避難ができています。避難に関わる必要物品や備蓄も準備しています。

### 6. 人材育成と専門性の向上

職員全体会議やスタッフ会議への参加を促し、個人のスキルアップと職員間で統一したケアが出来るよう報告、連絡、相談に努めました。強度行動障害支援加算を算定しており、加算条件となっている研修へ参加しました。

#### \*7年度職員研修参加状況

〈法人外研修〉

令和7年6月16日、17日	佐賀県強度行動障害支援者養成基礎研修	中島喜代美・白濱淳子
令和7年6月30日、7月1日	佐賀県強度行動障害支援者養成実践研修	中島喜代美
令和7年7月23日、25日	佐賀県サービス管理責任者研修	今福 和絵
令和7年11月1日	2025 One Society FoRUM SAGA 研修会	今福 和絵・中島 喜代美
令和7年11月7日	佐賀県相談支援従事者専門コース別研修「意思決定支援」	今福 和絵
令和8年2月14日、15日	第28回きょうされん九州ブロック学習交流会	長崎大会 今福 和絵

令和8年3月9日 障害者サービス従事者向け障害者虐待に関する研修会 久野 さゆり  
〈法人内研修〉  
令和7年5月21日 個別支援計画について  
令和7年6月24日 感染症による業務継続計画について  
令和7年8月20日 災害におけるBCPについて  
令和7年9月20日 権利擁護・虐待防止研修 支援現場で活かすアンガーコントロール  
令和7年10月22日 根拠のある記録の書き方について  
令和8年1月21日 障害者支援における精神衛生について  
令和8年2月14日 Hug Hug4 団体合同研修 障害者の意思決支援

## 7. 入退居報告

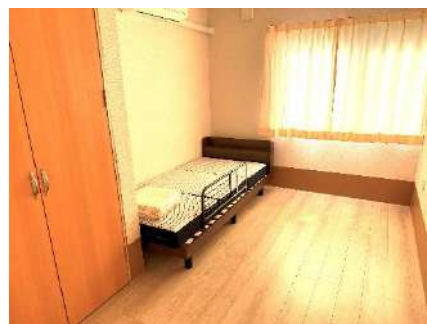
新規入居者（令和7年4月1日よりほっとハウス福田の増設のため）

令和7年4月1日 ほっとハウス新拓 3名入居 5床／6床

令和7年4月1日 ほっとハウス福田 2名入居 6床／6床

退去者 なし

※令和8年3月に新規利用者1名と利用契約しました。



## 令和7年度 短期入所事業報告

### 1. 業務報告

利用者が安心して宿泊することができるよう、家庭的な雰囲気作りに努め、保護者や関係機関との連携を密にして自立に向けた支援に努めました。

### 2. 利用者の処遇

利用者一人ひとりの心身の状況に応じ、職員が手を出し過ぎず日常生活上の必要な支援を考慮して利用のADLの向上に努めました。利用者ごとに支援目標を定め、個々のニーズに添った支援が出来るよう職員はケアの統一に努めました。

### 3. 健康管理

利用者の嗜好調査を行いつつ、バランスと消化の良い食事の提供に努め、来所時と起床時の健康チェックを行い体調の変化に留意しました。7年度もコロナウィルスやインフルエンザの感染防止のため、手洗い、消毒、換気に努め、施設内の除菌作業を毎日実施しました。

### 4. 環境の整備

施設内の美化と利用者の身の回りの整理整頓に努め、衣類等は洗濯し清潔な衣類を返却しています。快適な環境で過ごせるよう換気、通気に気を配り空調の管理を行いました。

### 5. 災害避難訓練の実施

防災計画にそって年2回、夜間避難誘導訓練を実施しました。(7月・2月)

### 6. 人材育成と専門性の向上

スタッフ会議や職員全体会議に参加して、個人のスキルアップと共に伝達研修や報告会を通して事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

## 令和 7 年度 短期入所利用実績

月	利用者数(人)	利用日数(日)	利用延べ日数(日)
4	11	36	72
5	13	38	81
6	15	39	82
7	15	39	86
8	15	37	81
9	12	32	65
10	15	35	74
11	17	43	89
12	14	40	81
1	15	41	80
2	13	31	58
3	12	40	79
合計	167	451	928
平均	14	38	77
昨年度 実績	15	49	102

## 令和7年度 放課後等デイサービスはなという事業報告

### 1. 事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上への支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行ったり、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画したりしました。

支援の質が低下しないように、個別支援計画作成手順を遵守し、職員全体で支援の目標や方法を共有できるように努めました。

### 2. 利用者の処遇

保育士、児童指導員を配置し支援にあたりました。それぞれの特性に応じた環境調整を行い、日常生活動作訓練や、学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上（ルール理解）等を行いました。休日などの一日利用時には行事を計画し余暇時間の充実を図りました。

### 3. 研修計画

施設内全体研修では、講師を招いて研修を行いました。施設外研修としては行政が主催する研修会、各団体などが開催している研修会に積極的に参加しました。研修に参加した職員が学んだことを、事業所内ミーティングや全体会議等で他職員にも報告することで、特性理解や支援技術の向上へと繋げました。

### 4. 健康管理

保護者様や学校担任への体調等の聴取は随時実施しました。利用開始時には体温測定や観察などバイタルチェックを行いました。

衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。新型コロナウイルス感染予防対策としては、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行いました。

### 5. 防災計画

令和7年7月29日(火)午前11時00分に本体施設生活介護より漏電による火災が発生、令和8年2月23日(木)午前11時00分に厨房より漏電による火災が発生したという想定にて、2回避難誘導訓練を実施しました。

## 6. 日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行い、個別支援計画に沿った課題や訓練を実施しました。特性に応じて個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しまれたり、外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるようになりました。

## 7. 実績

(ア) 利用契約児童数（定員 10 名）

小学部	中学部	高等部
23 名	8 名	1 名

## 8. 利用実績児童数（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

年 月	延べ利用者数	1 日平均利用数
令和 7 年 4 月	259 名	9.96 名
令和 7 年 5 月	260 名	9.62 名
令和 7 年 6 月	246 名	9.84 名
令和 7 年 7 月	257 名	9.51 名
令和 7 年 8 月	204 名	8.86 名
令和 7 年 9 月	225 名	8.65 名
令和 7 年 10 月	241 名	8.92 名
令和 7 年 11 月	210 名	8.75 名
令和 7 年 12 月	230 名	9.2 名
令和 8 年 1 月	222 名	9.63 名
令和 8 年 2 月	195 名	8.1 名
令和 8 年 3 月	254 名	9.76 名

## 令和7年度 就労継続支援B型 事業報告

利用者数：18名（1日平均利用者数10名）

職員数：18名（調理、配達員、事務補佐、兼務も含む）

### 1. 事業運営の基本計画

一般就労が困難である利用者に対して就労の機会を提供し生産活動やその他の活動を通じて、ひとりひとりの個性を尊重し地域における生活の充実と社会的自立の支援に努めました。

### 2. 利用者の処遇

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日		26	27	25	27	23	26	27	25	25	24	24	26	305
利用者	延べ人数	262	271	254	268	247	262	270	251	258	249	234	271	3,097
	1日平均	10	10	10	10	11	10	10	10	10	10	10	10	
工賃	総支払額	255,322	272,537	255,270	547,763	251,309	262,368	273,120	239,754	604,123	242,595	237,939	271,870	¥3,713,970
	月額工賃支給者数	15	16	15	15	16	16	17	16	16	17	17	17	

※7月・12月は賞与を含む

利用者の立場に立ち心身の健康保持と生産活動の能力向上に努めました。

平均工賃は、目標を達成し30,423円でした。

余暇活動は施設全体行事の新年会、入所式、蓮の実祭り、クリスマス会を行い、1月には祐徳稲荷神社へ初詣に出かけました。

### 3. 生産活動

#### ① 弁当事業・高齢者配食サービス（手作り弁当）

弁当・配食		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
弁当	個数/月	3,243	3,269	3,177	3,308	2,820	3,166	3,653	3,173	3,373	3,161	3,183	3,570	39,096	3,258
	1日平均	125	121	127	123	123	122	135	127	135	132	133	137	1,539	128
配食	個数/月	750	817	843	941	801	832	796	717	799	721	668	678	9,363	780
	1日平均	29	30	34	35	35	32	29	29	32	30	28	26	369	31

弁当・高齢者配食事業は、お客様のニーズに出来る限り対応した弁当を提供しました。

お弁当の総数は39,096個、1日平均128個でした。前年比1,883個増でした。

高齢者配食の総数は9,363個で1日平均31個でした。前年比2,832個減でした。

お弁当は増加しているが、配食は減少していた。

厨房では野菜の皮むきや刻み、盛り付け、洗浄などの作業を行いました。また地域への弁当配達にも行き、地域の方との交流も行いました。

#### ②内職（JA葬祭用ギフト作業・日本文教センター）

内職	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
JAセレモニー	3,900	2,300	3,600	2,500	2,600	2,800	1,800	1,600	2,900	1,700	2,800	2,900	31,400	2,617
日本文教センター	0	0	3,900	0	0	2,000	17,800	5,514	7,000	14,000	9,000	14,680	73,894	6,158

JA葬祭用ギフト作業は、前年比1200個の減でした。

### ③自 主 製 品（加工食品・ドライフルーツ製造・販売）

施設敷地内で胡椒（唐辛子）を栽培・収穫し、有明産の柚子で柚子胡椒に加工して、道の駅や直売所へ納品しました。また、下記の内容にてマルシェ出店も行いました。

令和 7 年		
4 月 11 日	第 59 回「笑顔 de さいこうマルシェ」 in 県民ホール	佐賀県庁 新館
5 月 4 日	「笑顔 de さいこうマルシェ」 in 九州陶磁文化館	九州陶磁文化館
10 月 18 日 19 日	佐賀さいこうフェス 「笑顔 de さいこうマルシェ」	佐賀県立美術館
11 月 16 日	しろいし ペったんこ祭	有明スカイパーク
11 月 22 日	金魚市	正徳寺（白石町築切）
令和 8 年		
1 月 31 日	手話フェス in 江北	江北小学校 体育館
2 月 7 日	白石町社会福祉大会	白石町総合センター
3 月 28 日	さがすたいる アウトドアフェス	吉野ヶ里歴史公園

### ④そ の 他 作 業（空き缶・古紙回収）

地域を定期的に回って空き缶・古紙回収作業を行いました。



## 4. 防 災 訓 練

火災を想定した避難訓練を他事業と合同で令和 7 年 7 月 29 日（火）、令和 8 年 2 月 23 日（月）に行いました。

## 5. 人材教育と専門性の向上

内部、外部の研修に参加し、事業全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

# 令和7年度 児童発達支援事業ほっぷ・すてっぷ事業報告

## ほっぷ・すてっぷの理念

子どもたちが持つ可能性や強みに着目し、  
成功体験を積み重ねることでこころとことばを育てていきます

### 1. 事業運営の基本方針

児童が日常的な基本動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、児童の心身及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行いました。

### 2. 利用児童の処遇

保育士、社会福祉士の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。日常生活動作訓練や個別訓練、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上等を身につけることへの支援を行いました。

### 3. 健康管理

保護者に児童の体調等を提供記録に記入して頂き、また保育園に迎えに行った際、担任へ登園時からの体調等の聴取を実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。衛生管理面にも配慮し、来所後、食事の手洗い実施や、室内の換気などこまめに行いました。感染予防対策としては、各家庭にて来所前日の夜、来所日の朝の体温チェックのご協力をして頂きました。事業所でも来所時と昼に体温測定を行い、玩具、机などの備品は消毒を行い、清潔を保つように努めました。

### 4. 防災計画

令和7年7月14日（月）16日（水）17日（木）25日（金）29日（火）本体施設の生活介護から火災を想定した訓練を実施しました。又、令和8年2月16日（月）17日（火）18日（水）19日（木）、20日（金）は、本体調理場からの火災避難訓練を実施しました。

令和7年9月18日（木）水害からの垂直避難訓練を実施しました。

### 5. 日課

保育園への送迎後、バイタルチェック、朝の準備、排泄、手洗いを行い、個別支援計画に沿った訓練を実施しました。リズム運動を取り入れ、体のバランス感覚や体幹を鍛えていく運動をしました。朝の会は年齢に応じた活動を行い、椅子に座る練習をしました。また個別訓練を行う事で、苦手な課題を克服できるよう支援しました。屋外活動を取り入れ、社会性やルールを学ぶ練習をしました。

## 6. 研修参加実績

- ・令和7年度 第2回子ども支援部会 くろかみ学園児童発達支援センター視察
- ・佐賀県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 更新研修
- ・佐賀県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 実践研修
- ・杵島地区、従事者研修会「乳幼児から思春期まで切れ目のない性（生）教育」
- ・虐待の発生機序とは～虐待を未然に防ぐアンガーコントロール
- ・発達が気になる子どもへの支援、関わり方について

## 7. 実績

①利用契約児童数 契約児童総数 36名

未満児（3歳以下）	年少児	年中児	年長児
0名	10名	10名	16名

②利用実績児童数（令和7年4月～令和8年3月）定員10名

年 月	開所日	延べ利用児数	1日平均利用数
令和7年4月	21日	101名	4.8名
令和7年5月	20日	96名	4.8名
令和7年6月	21日	111名	5.2名
令和7年7月	22日	133名	6名
令和7年8月	17日	98名	5.8名
令和7年9月	20日	122名	6.1名
令和7年10月	22日	139名	6.3名
令和7年11月	18日	113名	6.3名
令和7年12月	21日	113名	5.4名
令和8年1月	19日	121名	6.4名
令和8年2月	19日	101名	5.3名
令和8年3月	21日	140名	6.7名



## 令和7年度 放課後等デイサービスゆめきら事業報告

### 1. 事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上を目的に支援を行いました。5領域を取り入れた支援計画を作成し総合的に支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行い、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画しました。

支援の質の向上のためにチームでの支援が行えるように業務開始前後のミーティングや会議で情報の共有を行い、統一した支援を行いました。

学校や相談支援事業所などの関係機関と情報共有や情報提供を行い密な連携を図りました。

### 2. 利用者の処遇

保育士、児童指導員等の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。

日常生活動作訓練や学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上（ルール理解）等を行い活動を通して個別訓練や集団訓練も行いました。平日の夕方や休日などの一日利用時には行事を計画し、屋外活動を取り入れながら地域との交流を図ったり余暇活動を楽しんだりする機会を設けました。

### 3. 研修計画

- ① 法人内での研修会や全体会議（月1回）に出席  
（虐待防止・感染症対策・災害対策・身体拘束適正化を含む）
- ② 自立支援協議会（子ども支援部会）に参加し地域との連携や情報共有の実施
- ③ 新任研修の実施

### 4. 健康管理

衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。感染予防対策としては、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行い、児童に対しても感染症対策の理解を深めるために会の集まりなどで周知・徹底を行いました。手洗いチェッカーにて隅々まできちんと手洗いができているか確認を行い、子どもたち自身が感染対策への意識が高まるように支援を行いました。

### 5. 防災計画

- |            |        |             |        |
|------------|--------|-------------|--------|
| ・令和7年4月12日 | 火災避難訓練 | ・令和7年7月29日  | 火災避難訓練 |
| ・令和7年8月8日  | 火災避難訓練 | ・令和7年8月11日  | 地震避難訓練 |
| ・令和7年9月6日  | 水害避難訓練 | ・令和7年12月29日 | 火災避難訓練 |

## 6. 日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行いました。  
毎日ソーシャルスキルトレーニングの時間を取り入れ個別の支援計画や課題に応じた個別訓練を実施しました。特性に応じて、イヤーマフの活用やパーティションで区切った個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しまれたり、平日や休日は外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるように環境の調整を図りました。

## 7. 利用実績

① 利用契約児童数 契約児童総数 32名

小学部	中学部	高等部
32名	0名	0名

② 利用実績児童数（令和6年4月～令和7年3月）

年 月	延べ利用者数	1日平均利用数
令和7年4月	244名	9.3名
令和7年5月	228名	8.4名
令和7年6月	217名	8.6名
令和7年7月	226名	8.3名
令和7年8月	179名	7.7名
令和7年9月	211名	8.1名
令和7年10月	226名	8.3名
令和7年11月	206名	8.5名
令和7年12月	206名	8.2名
令和8年1月	198名	8.2名
令和8年2月	186名	7.7名
令和8年3月	209名	8.0名



## 令和7年度 外出支援事業報告

### 1. 基本業務の内容

利用者の地域生活及び社会参加の促進を目的として、買い物・通院・余暇活動等の外出支援を実施した。外出時は利用者の体調確認、安全確認を行い、移動介助や必要な見守り支援を実施した。外出先では金銭管理支援、コミュニケーション支援、食事・排泄支援等、個々の状況に応じた支援を行った。

### 2. 利用者の処遇

利用者一人ひとりの人格及び意思を尊重し、障害特性や心身の状況、生活環境に応じた個別支援に努めた。安心・安全に利用できる環境整備を行うとともに、日常生活上の支援、活動参加への援助、相談対応等を実施し、安定した施設利用に繋がるよう支援を行った。併せて、家族及び関係機関との連携を図り、利用者が地域で自分らしく生活できるよう必要な支援の充実に努めた。

### 3. 健康管理

毎回、サービスを利用の際に、本人もしくは家族に体調や生活面の様子を伺い、変化等がある場合は、記録に残しました。検温、手指消毒、マスク着用、アルコール消毒など徹底しました。

### 4. 利用実績（人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外出支援	18	18	17	18	12	12	15	14	14	15	14	13	180

※延べ利用者人数は前年度比- (+61人)

### 5. 移動支援

福祉有償運送により、外出の支援を行ないました。令和7年度は、延べ199回の利用があり、2,125km走行しました。

### 6. 安全管理・事故防止

外出前の体調確認及び行程確認を行うとともに、移動時や外出先における安全確認を徹底し、事故防止に努めた。車両使用時には安全運転を徹底し、乗降時の見守りや介助を適切に行うことで、安心して外出できる支援体制の確保に努めた。

### 7. 今後の課題・次年度方針

利用者の多様なニーズに対応するため、外出先の選択肢拡大及び支援内容の充実が課題である。今後も安全面に十分配慮しながら、利用者の希望に沿った外出機会の提供に努めるとともに、職員間の連携強化及び支援体制の充実を図っていく。

# 令和7年度 日中一時支援事業報告

## 日中一時支援事業 理念

- ・ご家族との連携に努め、安心して預けられる『場所』を作ります。
- ・利用者の特性を把握して、日々の学びを深めながら統一した支援に努めます。

### 1. 運営基本計画

利用者ひとりひとりの個性と家庭の教育方針を尊重し、生活習慣の確立及び機能の向上に心がけ、明るく楽しい施設運営に努めました。

### 2. 利用者の処遇

すべての利用者を平等に処遇し、趣味の活動や娯楽を通して将来の自立に向けた生活習慣の指導・訓練とADLの向上に努めました。ショートステイ利用後、登校前支援としてうれしの特別支援学校への朝送りに対応しました。

### 3. 利用者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登校前支援	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6
日中支援	140	142	135	123	97	120	142	116	125	114	113	117	1484

### 4. 環境整備

前年度に引き続き、感染症予防に心がけ、施設内清掃と利用者周辺の整理整頓に心がけました。食事やおやつ前には手洗いを促し、利用前、利用後には手すり椅子、テーブルなどのアルコール消毒を励行するなど健康保持に努めました。

### 5. 防災計画

年2回、令和7年7月29日、令和8年2月23日施設内他事業と合同で火災を想定した利用者を含めた避難誘導訓練を行いました。計画的に実行し、今後の対策と反省点などを職員全体で共有できました。

### 6. 日課

平日	学校の下校に合わせて送迎車で施設へ移動
趣味活動	15:30～18:00 (保護者迎えまで)
帰宅 (事業所送り)	通常 17:00 事業所発
帰宅 (保護者迎え)	通常 18:00 まで
土曜 祝祭日 学校休業日	受け入れ時間 9:00～17:00

### 7. 職員研修

内部、外部の研修に積極的に参加し、職員全体会議で伝達報告を実施することにより事業全体の資質の向上と統一した支援に努めます。